

制作スタッフが語る！4K Ultra HD Blu-ray 版「シン・ゴジラ」はここがスゴい！

パナソニック映像

昨年夏公開され、興行収入 82.5 億円を記録した映画「シン・ゴジラ」。3 月 22 日遂にそのディスク版が発売される。今回発売されるのは DVD 版や Blu-ray 版など全 4 種類。そのひとつ、「シン・ゴジラ Blu-ray 特別版 4K Ultra HD Blu-ray 同梱 4 枚組」には 4K 対応の次世代ブルーレイ規格のディスクが同梱されている。パナソニック映像では 4KHDR 化の作業を担当。そこで Ultra HD Blu-ray の制作に係わったスタッフに 4K 版の見所や制作秘話を語っていただいた。

最初にお話を伺ったのは劇場版でもカラーグレーディングを担当した、株式会社ピクチャーエレメントの齋藤 精二氏。



—カラーグレーディングってどんなお仕事ですか？

CM などの業界では「カラコレ」というのが一般的ですが、僕は映画では「カラーグレーディング」という言葉を使わせて頂きます。色は一つの大事な道具ですが、それ以外の様々な技術と組み合わせて、監督やカメラマンの希望する「世界観」をどうやって構築するかが、カラーグレーディングの役割だと思っています。「世界観」の例としては、昭和の雰囲気にしたとか、近未来にしたとかですかね。

—では今回監督から求められた「世界観」とは？

そうですね、一番大事だったのは今の日本にゴジラが現れたらという「ライブ感」だったんです。今回 아이폰 もカメラとして採用していますし、色々なカメラを全部で 25 台ぐらい使っています。ですから色も統一されているわけではなく混在しているんですが、それは狙いな部分が多いんです。色んな人が色んな所でゴジラを見上げて「わー！」となっているところをしっかりと腰すえたカメラで撮るのではなく、もうガンガン振り回しているような映像が中に入ったほうが、その喧騒感とかが当然表現できるので。ライブ感を一番大事にしたときにどのカメラがライブ感を出せるか？を監督は大事に考えていたと思います。

—映画と Ultra HD Blu-ray とでグレーディングの際、大きな違いはありましたか？

Ultra HD Blu-ray のスペックを最大限に出そうとしたら、本来は撮影から計算して撮らなくてははいけません。今回は 2K-DCI からのアップコンのため、4K-HDR という、与えられた大きなバケツの中にこの作品の品質をどうやって展開しているか、どこまで Ultra HD Blu-ray のスペックを引き出せるかというさじ加減が必要でした。作品の演出を壊さないようにするため、テクニカルなジャッジだけではなく、クリエイティブなジャッジも重要でしたね。

—Ultra HD Blu-ray 版でのお勧めシーンは？



夜のゴジラのシーンですね。ゴジラの発光のピークが、まさに見せたいところなんです。実は、監督は光線には非常に拘りがあるので、色も質感も判断が慎重になりましたね（笑）。ここでは一番まぶしくなっていく段階まで一緒に表現されている紫の色も効果的に表現されています。4KHDRになって色域が変わり、Rec.709からBT.2020になったことで、劇場用のマスターリングで使用していた色の数がそのまま渡せるようになったんですよ。これは僕にとって一番大きなことですね。ですから全体的にも普通のブルーレイで見たときより映画館の印象にほぼ近いです。狙っている印象に確実に近づいています。

—齋藤さんが個人的にお好きなシーンは？



やはり第4形態で上陸してきたところですかね。このシーンで初めてゴジラのテーマ曲がかかるんで、「お待たせしました！」という感じで。ゴジラファンとしても「お帰り」って感じですね。

オーサリングを担当したのは、パナソニックAVCディスクサービスの白木健一氏。



—ブルーレイから Ultra HD Blu-ray になったことで何が大きく変わりましたか？

圧縮方式が MPEG4-AVC から HEVC という新しいコーデックに変わったことと、映像データで使えるビットレートが最大で、40Mbps から 100Mbps に変わったことがあります。そしてビット深度が従来の BD の 8 ビットから 10 ビットに変わったことにより、色の再現性が数段良くなり、エンコード素材のマスターに近い色が再現できるようになったというのが大きな違いですね。

—白木さんお勧めのシーンは？

齋藤さんと同じですね。チャプター15 から 18 までのタバ作戦からゴジラが一旦止まる場所までがお勧めです。特にチャプター18 の、暗い背景と対比してゴジラの吐く光線や背びれの発光のコントラストがかなり迫力ある映像になっていると思います。

4KHDR 化の画作りを担当した、パナソニック映像の石黒一哉氏。



—作業で苦労された点は？

今まで 4KHDR 化の作業は何作品か担当していますが、作品ごとに画作りが違うので、その度に何パターンか作っています。今回の「シン・ゴジラ」だと、大まかにシーンを分けて全部で 20~30 パターンぐらい作りましたね。そのうち厳選した数パターンを齋藤さんに見ていただき、方向性を決めました。作業時間も人が多くいる会議室のシーンからいきなり戦闘シーンになったり、急にカットが変わったりして。シーンのパターンが多いとそれだけ時間もかかりますね。

さらに詳しいインタビュー内容はパナソニック映像の Web サイト(<http://panasonic.co.jp/avc/pvi/>)で公開している。今から発売が待ち遠しいが、是非 Ultra HD Blu-ray で見ていただきたい作品だ。

■シン・ゴジラ Blu-ray 特別版 4K Ultra HD Blu-ray 同梱 4 枚組

メーカー希望小売価格 8,800 円＋税 / 品番:TBR27002D



本編ディスク 4K Ultra HD Blu-ray
本編 119 分／2 層 66G／16:9 スコープサイズ
音声:(1)日本語 3.1ch dts-HD Master Audio
 (2)日本語 2.0ch dts-HD Master Audio
字幕:(1)日本語字幕

本編ディスク Blu-ray
本編 119 分／2 層 BD50G／16:9 スコープサイズ
音声:(1)日本語 3.1ch dts-HD Master Audio
 (2)日本語 2.0ch dts-HD Master Audio
字幕:(1)日本語字幕

特典ディスク Blu-ray
特典映像 139 分／1 層 BD25G／16:9 ワイドスクリーン
音声:日本語 2.0ch dts-HD Master Audio

<収録内容>

プロモーション映像集
イベント記録映像集

スペシャル特典ディスク Blu-ray
特典映像 193 分／2 層 BD50G／16:9 ワイドスクリーン
音声:日本語 2.0ch dts-HD Master Audio

<収録内容>

現場メイキング 現場アウトテイク未使用テイク集 現場アウトテイク NG テイク集
現場アウトテイク現場出しニュース・番組集 プリヴィズリール集 プリヴィズ・特撮アウトテイク集
VFX メイキング～Shin Godzilla Visual Effects Breakdown～

(関連情報)

「シン・ゴジラ」公式サイト

<http://shin-godzilla.jp/>

パナソニック AVC ディスクサービス株式会社

<http://panasonic.co.jp/avc/pavcds/>

パナソニック映像株式会社

<http://panasonic.co.jp/avc/pvi/>